

Title	表紙・投稿規定・プレプリント案内・編集後記・裏表紙 ほか
Author(s)	
Citation	物性研究 (1988), 49(6): 573-573
Issue Date	1988-03-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/92945
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和63年3月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第49巻 第6号

ISSN 0525-2997

vol.49 no.6

物性研究

1988 / 3

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査を行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにしてください。

投稿規定

1. 原稿は400字詰原稿用紙を使用し、雑誌のページ数を節約するために極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress, Journal** の投稿規定に準じ、立体“ \square ”、イタリック“ $\textit{—}$ ”、ゴシック“ \sim ”、ギリシャ文字“ γ ”、花文字、大文字、小文字等を赤で指定して下さい。又特に区別しにくい o と a と 0 (ゼロ)、 u と n と r 、 c と e 、 l (エル)と 1 (イチ)、 x と \times (カケル)、 u と v 、 \dagger (ダガー)と $+$ (プラス)、 ψ と ϕ と Ψ と Φ 等も赤で指定して下さい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図はそのまま印刷できるもの（原則としてトレースされたもの）とそのコピーを本文と別に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。図の縮尺、拡大は致しません。図の説明を含め1頁（ $13\times 19\text{cm}^2$ ）以内に入らないもの、そのまま印刷できない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。図中の文字は活字にいたしません。図の説明は別紙に書き、原稿に添えて下さい。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけ避けるようにして下さい。
8. 別刷御希望の方は投稿の際に50部以上10部単位でお申込み下さい。別刷代は別刷代金表（当会にご請求下さい）に従い、別刷を受取ってから1ヶ月以内に納めて下さい。（郵便切手による受付はいたしません。）
9. 原稿締切日は毎月5日で、原則として次月発行誌に掲載されます。

編集後記

ふりかえってこの一年の編集後記をながめてみると、高温超伝導の話題が数多くとりあげられている。それほど、この話題でもちきりであった。純粋物理学的に大変魅力的な話題であることはもちろんであるが、その実用的な価値の大きさもあって世を挙げてのブームとなった感がある。現象の理論的な解明はなかなか困難であり、実験的にも新種の高温超伝導物質が追加されつつあるようで、当分の間この話題で活況を呈し続けることは間違いなさそうである。

一方、3月11日付の各新聞誌上でフェルマーの大定理の証明に、日本人数学者が成功したらしいというニュースが一斉に流れた。こちらは純粋に知的な興味に属する話題であろう。記事によれば、ある大きな自然数が存在して、それより大きな自然数に対しては大定理が成り立つ、ということの証明ができそうだということであった。証明はまだ完成したわけではなさそうだし、また『ある自然数』が具体的に求まるものなのか、または存在するというだけのものなのか、詳しいことはわからなかった。それにしても多くの人が驚くようなニュースであった。

以上のように21世紀にまでもちこすだろうと思われるような難しい課題でも、いつ何とき急な進展を見せるかわからない。こういった可能性こそは基礎研究分野に人々を引きつける要因の一つであろう。しかし、こうした展開のきっかけは、一つには目立たない地道な研究の積みかさねからでてくるものに違いない。また一方で、若い人たちの自由で新鮮な発想から生まれてくることもあるだろう。本誌もこのような芽に対する土壌の1つでなければならない。

(T. T.)

物 性 研 究 第49巻第6号 (昭和63年3月号) 1988年3月20日発行

発行人	小 貫 明	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

編集後記

ふりかえってこの一年の編集後記をながめてみると、高温超伝導の話題が数多くとりあげられている。それほど、この話題でもちきりであった。純粹物理学的に大変魅力的な話題であることはもちろんであるが、その実用的な価値の大きさもあって世を挙げてのブームとなった感がある。現象の理論的な解明はなかなか困難であり、実験的にも新種の高温超伝導物質が追加されつつあるようで、当分の間この話題で活況を呈し続けることは間違いなさそうである。

一方、3月11日付の各新聞誌上でフェルマーの大定理の証明に、日本人数学者が成功したらしいというニュースが一斉に流れた。こちらは純粹に知的な興味に属する話題であろう。記事によれば、ある大きな自然数が存在して、それより大きな自然数に対しては大定理が成り立つ、ということの証明ができそうだということであった。証明はまだ完成したわけではなさそうだし、また『ある自然数』が具体的に求まるものなのか、または存在するというだけのものなのか、詳しいことはわからなかった。それにしても多くの人が驚くようなニュースであった。

以上のように21世紀にまでもちこすだろうと思われるような難しい課題でも、いつ何とき急な進展を見せるかわからない。こういった可能性こそは基礎研究分野に人々を引きつける要因の一つであろう。しかし、こうした展開のきっかけは、一つには目立たない地道な研究の積みかさねからでてくるものに違いない。また一方で、若い人たちの自由で新鮮な発想から生まれてくることもあるだろう。本誌もこのような芽に対する土壌の1つでなければならない。

(T. T.)

物 性 研 究 第49巻第6号 (昭和63年3月号) 1988年3月20日発行

発行人	小 貫 明	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL(075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	15,600円		

会員規定

個人会員

1. 会費：当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月末までになるべく1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規入会お申込みの場合は下記の会費以外に入会金として、100円お支払い下さい。

1年間の会費

1st volume (4月号～9月号)	4,200円
2nd volume (10月号～3月号)	4,200円
	計 8,400円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
(振替貯金口座 京都1-5312) (現金書留は御遠慮下さい)
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず会員本人の Namen を明記して下さい。
3. 送本中止の場合：次の volume より送本中止を希望される場合、かならず「退会届」を送付して下さい。
4. 会費の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vols. 以上の会費を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人宛送本中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人宛送本中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等により送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関会員

1. 会費：学校・研究所等での入会及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1冊 1,300円、1 Vol. 7,800円、年間15,600円です。この場合、入会金は不用です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。入会申込みをされる時、支払いに請求、見積、納品書が各何通必要かをお知らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合：発行途上にある volume の途中送本中止は認められません。退会される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「退会届」を送付して下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

☎ (075) 751-2111 内線7051 (075) 722-3540(直通)

物 性 研 究 49—6 (3月号) 目 次

○研究会報告	
基研短期研究会「トポロジーの物理への応用」報告	515
○Si-Ge系の状態図への圧縮効果の影響	565
○編集後記	573
○目 録 (Vol.48~49)	574

物 性 研 究 49—6 (3月号) 目 次

○研究会報告	
基研短期研究会「トポロジーの物理への応用」報告.....	515
○Si-Ge系の状態図への圧縮効果の影響.....	565
○編集後記.....	573
○目 録 (Vol.48~49)	574